

No.	3-1-2	場所	辰野町辰野「昭和橋」	次世代への継承キーワード
名称	諏訪湖から流入する水で流された昭和橋			災害現象理解
災害現象	洪水氾濫			河川 天竜川本川
補足事項				支流

諏訪市
岡谷市
辰野町
箕輪町
南箕輪村
伊那市
高遠町
長谷村
宮田村
駒ヶ根市
飯島町
中川村
大鹿村
松川町
高森町
豊丘村
喬木村
上村
飯田市
南信濃村
清内路村
阿智村
浪合村
平谷村
下條村
阿南町
売木村
天龍村

天竜川には、「鷲流峡」「天龍峡」などの狭さく部があり、その影響で水位が上昇し、氾濫・浸水被害が発生し、また、支川から流れ込む合流部で堤防の決壊、越水が引き起こされた。

諏訪湖から流れ出る天竜川は警戒水位を突破し、各地で橋を流失し、堤防を決壊してあばれまわった。

●体験談：朝夕、天竜川を眺めて暮らしてきた老夫婦の話

辰野駅前通りの下辰野側と、対岸の平出側を結ぶ橋のひとつが昭和橋。

昭和橋のたもとで瀬音を聞きながら、朝夕、天竜川を眺めて暮らしてきた△△さん(79)、〇〇さん(79)夫婦は、現在の橋に架け替えられる前の「木橋」の様子を語れる数少ない証言者。「車が通ると自転車が通れないほど狭くて、橋の長さも今の半分ぐらいだった」と〇〇さん。木造の橋げたには砂利や土が敷き詰められていて、轍(わだち)ができた、穴があいたり。「酔っ払いが落ちては困るからと思って、しょっちゅう補修をしたものですよ」と、懐かしそうに当時を振り返る。

その木橋も、六一年六月二十八日の梅雨前線豪雨(三六災害)で流された。〇〇さんはその時のことを今でも鮮明に覚えている。「確か午後四時ごろだったと思います。ビシッという音がしたと思い、あわてて外に出てみたら橋が消えていた」。

(長野日報環境企画「天竜川水紀行」より)

記 録



流れてしまった辰野町昭和橋

出典	「濁流のあと」p.2/ 長野日報環境企画「天竜川水紀行」		
備考			

No.	3-1-2	場所	辰野町辰野「昭和橋」	緯度	35.979673
-----	-------	----	------------	----	-----------

名称	諏訪湖から流入する水で流された昭和橋			経度	137.994922
----	--------------------	--	--	----	------------

地図 広域図



地図 詳細図



備考 上記地図に表示されている、黄色の区域は「土砂災害警戒区域」（通称：イエローゾーン）といい、土砂災害のおそれがある区域を指します。また、赤色の区域は、「土砂災害特別警戒区域」（通称：レッドゾーン）といい、土砂災害警戒区域のうち、建築物に損壊が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域を指します。